

## 第5回目 感想

\* 環境情報学府 環境生命学専攻

M1 女

【11月10日 勝間和代さん講演】

ワークライフバランス、という単語を初めて耳にしたのが勝間さんの講演でした。ワークライフバランスを保つ極意とは、なるべく楽しく儲けるとのことでした。日本の生産性の悪さは「女性が家庭に入ること」が当面であるところ、すなわち女性の働く基盤が整っていないことなのだということがよくわかりました。

私の男性の友人も就活の話題が出るとよく「女子は結婚しちゃえば働かなくてすむからいいよね、男はもっとシビアだよ」といったことを言います。こうした考えは若者にも普通にあるのだと思われませんが、これが彼らの理想の家庭であり、ますます男性が働きすぎる社会を作っているのではと思います。私は、実は同じ年代の男性はもう少し女性が長期に働くことを普通だと思っているのではないかと思っていました。私たち若者どうしの間でも男女間で考えに相当な隔たりがあるので、もっと大きな隔たりのある社会に出るためには勝間和代さんや他の働く女性の意見を聞いて自分の考えとすり合わせていかないといけないと強く感じました。

環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻

D1 男

○勝間和代先生

講演間際になり、聴衆が一気に増えて驚いた。

売れっ子作家（経済評論家）ともなると、こういうものなのか。

論点は、「社会構造の問題を常に意識しながら、具体的な行動の指針を提起し続ける」という彼女独自のスタイルで、確かに平素、私が意識していないような統計数値（アンケート結果含む）で、真実を突くといった講演は聴いていて飽きない。

ただし、やはり経済評論家の講演だなと思ったのは、割と直感的で、時代受けはしても、どこまで普遍性があるのかは大いに疑問であった。足下では、確かに有益でも、少し将来となるとどうなのだろうか？

また、本人は努力嫌いを公言しているが、瞬く間に、今日の地位を得、売れっ子でい続ける以上、言葉以上の努力なくしてはありえないとも思うのである。そう思わなけ

れば、私自身、社会人大学生として、学位取得を目指し、働きながら学ぶ意義が否定されてしまうからである。結局、耳障りの良い美談よりは、耳が痛い諫言の方が、今の私には心地良いというのが、悲しいかな、私の正直な感想である。

\* 環境情報学府 環境生命学専攻

D1 女

勝間さんのことは今たくさんの雑誌のコラムの欄で見つけることができる。インターネットで勝間さんの名前を調べるとありとあらゆる場面のサイトにヒットする。それだけ支持されているのかと思ったら、意外に批判的なコメントも多く、謎が多い女性だと思ったのが最初の印象であった。当日は男性の聴講者の方もたくさんいて、勝間さんのすごさを感じた。今回の女性キャリアパスの講義で、生の疑問を抱いている方の講演が拝聴出来て大変有意義な時間を過ごさせていただいた。

ワークライフバランスについて

この単語は以前、新聞で残業代がつかないのに残業させられて、しかも一向に仕事が片付かない問題をテレビで取り上げているときに、その番組内でたくさん耳にした言葉だった。私は今学生で、学部卒業後にそのまま大学院に進学したので社会に出て働いたことはない。なので、ワークライフバランス、残業、という言葉はいまいちピンとこないのが本音である。しかし、ずっと学生でいられるわけでもなく、いつかは社会に出て働かなければならない日が来るだろう。そして今独身であるが、いつか結婚した時に仕事は、家庭はと迫られる日が来るだろう。そういった予想や仮定でしかないことを、わかりやすく理解するためにワークライフバランスといった言葉が実にわかりやすかった。ということは、家事、育児、仕事を両立するのは、女性の仕事だということが定着している証拠ではないかと感じた。なぜならワークライフバランスが定着して一番救われるのは、仕事以外に家庭でも仕事を持つ「お母さん」という立場の人ではないのだろうか。「お母さん」が「お父さん」と同じように外で仕事を持つことが多くなってきた今、たくさんの問題が出てきて当然である。勝間さんの意見は働く女性であり、上司であり、なにより「お母さん」の意見であると強く感じた。

女性の雇用問題

勝間さんがおっしゃっていたことで印象に残っていたのが、女性はある一定の年齢を超えると天井を突き破ったように仕事が増える。女性重役の委員会をいくつも掛け持ちするくらいになるとお話しだった。確かに研究者の世界でも女性研究者支援や、女性研究

者を積極的に雇用します、と宣伝している研究機関もある。女性は結婚したらキャリアなんて積む前にすぐ会社を辞めてしまうだろう、と一昔前はどの企業も考えていたのではないだろうか。雇用する側の身になって考えてみると当然のことである。新入社員に一人から会社のノウハウを仕込んでいくのは容易なことではないだろう。一人のために割く時間など時給換算したら会社にしても、指導する側にとっても、結構な損失になることぐらい、少し考えてみればわかることである。優秀な女性がいる。同じく優秀な男性がいる。そんな時は男性側を採用するだろうということは女性の私からみても仕方ないと思う。出産、育児休暇など、それだけ女性に仕事をさせるにはリスクが高いということなのだろう。また、面白いと思ったのは、男性は結婚相手の女性に仕事をしてほしいという人が多いという結果が出ていることである。より豊かな暮らしを望む人が多いという結果なのか、男性一人の所得では生活に十分な所得に届かないという人が多いのかはわからないが、これは最近の傾向なのだろうか。

#### 少子化

最終的に食い止めなければならない重要な問題がこれなのではないだろうか。この問題についてはたくさんの対策や議論がなされているが、これといって少子化を食い止める方法は未だにないのが現実である。すぐに結果がでるものではないし、大きな問題であり、巨額の資金を費やすほど重要であり、デリケートな問題であると思う。今回の講義は大変興味深いものであったが、正直、実際に体験してみないと、女性が働くということの厳しさはわからないのだと思う。女性キャリアパスという講義名だが、女性が生きる道を選ぶとき、決してキャリアだけではない。結婚して子供を産んで、仕事を辞めなければならないという問題が主であったように思うが、未来のことなんて誰もわからない。結婚して子供が生まれたからこそ、望まない労働を強いられる場合だってある。働きたいのに働けない、働きたくないのに働かなければならない。とにかく進む道を自分で決められるという余裕があってこそその議論であることを忘れてはいけないのだと感じた。自分の進む道をあきらめても、それが家族のためになるなら、という結論を出すことは、女性にとっても男性にとっても、とても幸せなものであることは間違いない。それぞれの家庭が幸せな結論が出せれば、たくさんの子供に恵まれた豊かな国になるのではないだろうか。

#### 参考文献

朝日新聞社 Asahi.com <http://www.asahi.com/business/topics/katsuma/>

今回の講演会ですが今までの女性キャリアパス講義の中で最も良い講義であったと感じました。講演を聞いていまして、まず第一に感じましたのは勝間氏は大多数の人間を前にした話がうまいということです。菅直人氏等と話す機会を持つことができる立場にあるということ伝えることにより聴講者からの注意と信用を高めたり、わかりやすくもセンセーショナルな数字（女性の7割は仕事を辞めてしまっ戻らない、毎年の中絶の数が20万人、このままでは毎年150万弱の人口減に突入、0.2%の改善等）を用いて、聴講者の注意を散漫にせず伝えたいことを伝えることができていたと思います。勝間氏は講演中、情報を受け身で受け取っては（鵜呑みにしては）いけないとおっしゃっていましたが多くの人にそのお話の中で疑問に思う点や違う意見が生まれない程度理論的にしっかりしていると、（意識的にせよ無意識的にせよ）思わせることに成功していたと思います。

女性キャリアパスの視点から見た感想としましては、女性たちに気を遣いすぎるがゆえに（もしくは気の使い方を間違えたがゆえに）逆にジェンダーフリーを阻害しているとの指摘（キャリアウーマンを育児休業後閑職に回す等）は男女間での意思疎通をきちんと行わないまま制度を導入することの危険性を表わすものであり、女性側が現状の何がどう不満であり、どのようにすればそれが解消されるのかがちゃんと調べられていないのではないのかと感じました。

逆に不満点を申し上げますと、今までの講義とは違い、講演会形式でしたので講演者との距離が遠く感じられました。他には、3悪の除去や0.2%の改善、7万円する掃除機の購入等のお話を聞いていても、その実現可能性や生産性の向上につながるのか疑問を禁じえませんでした。人間はだれしもが同じ程度強いわけでもなく、知識の吸収率にも差がありますが、勝間氏の話はその点が抜けおち自身パラメータを中心に語っている感が否めませんでした。

勝間先生の講演の中で、時間を節約してクリエイティブな仕事をするにはルンバ（自動掃除機）がとても役に立ちますということでしたので、共働きの我が家もさっそくルンバを購入しました。家事と時短について考えさせられました。

勝間和代さんによる「福利厚生ではなく競争力回復に向けたワークライフバランス」についての講演を拝聴しました（他の授業と少し重なっていたため、残念ながら最後の20分程は聴くことが出来ませんでした）。

まず、女性と男性のワークライフバランスについて、新幹線のグリーン車や飛行機のビジネスクラス、ファーストクラスを例に挙げ、その座席占有率の男女比が日本の場合では女性：男性＝1：9であり、これがすなわち日本の男女のワークライフバランスの傾向を示しているというお話がありました。とてもわかりやすい例に納得し、また、1：9という大きなアンバランスに少し驚きました。また、男女以外にも限りませんが、将来ますます年収が二極化するという事も耳にしますが、その大きな較差にも改めて厳しさを感じました。シングルマザーになる可能性も視野に入れた場合、女性は年収600万円は確保したいという勝間さんのお話を聞き、仕事を得ることに向けて、少なくとも一つ具体的な年収目標が出来たように思いました。卒業後の仕事や生き方に対してあまり目標を見出せずにしたため、将来の仕事を考えるための一つの切り口を得たことは自分にとって、何かしら一歩進めたように思いました。

また、毎日0.2%の改善、「浪費をせず、投資を惜しまない」、というのもとても印象的でした。そのために、設備投資をすることによって、自分の時間とお金を回収し、それにより、さらに新たな設備投資をする、といった形が良い流れを作るとのことでした。私自身がそのように上手くできるのかはわかりませんが、そんな改善のサイクルを実現し、広めていけたら社会全体の競争力アップにもつながりそうだと思います。

「生産性の向上」のためには、インプット力：アウトプット力＝5：5の割合がよいとのことでした。インプット、アウトプットの両方を充実させるのはとても難しいように思いますが、勝間さんはきっとそれを日々実践されているのだろうなという感じがしました。そのために実践できることとして、フレームワーク力（整理整頓するメガネフレームを持つ）、ディープスマート力（専門分野へ特化）、失敗力、ベスト・プラクティス（いいコーチを真似る）、価値を出せないところは捨てる、良書を手に入れる、webも活用する、ノートパソコンを使い倒す、などなど、いろいろと実生活で改善していけそうな参考になるお話もたくさんご教示いただきました。

勝間さんは、なるべく夜8時に家族と一緒に夕食がとれるよう毎日のスケジュールを立てるようにしているとおっしゃっていました。勝間さんのように著名で各方面で役割を担われている方は、仕事はいつでも山積しているのだと思います。そのような中で、大切な家族との時間を確保し、ご自分のライフバランスをうまくマネジメントされていることにとても感銘を受けました。全体を通して、プレゼンテーションの上手さ、絶え間のないトークにとても感銘を受けました。準備して用意された「お話」というより

も、勝間さん自身から発せられる「生の声」という感じが印象的でした。私自身は、数分間のみのプレゼンテーションですら満足に出来ず、とても苦手意識があるため、勝間さんのようなメッセージ性豊かなプレゼンテーションが出来るように心がけたいと思いました。

\* 環境情報学府 環境生命学専攻

M1 女

今回はテレビなどでもよくお見かけする勝間和代さんのお話を聞くことができとても面白かったです。

お話を聞くまでは少し恐いといったイメージが強かったのですがお話を聞いてからは恐いというよりも力強い女性であると感じました。現在日本で大きな問題になっている少子高齢化問題も少子化＝人口が減ることが問題であると私は思っていたが単に人口が減ることが問題なのではなく社会の構成自体が変わってしまうことが問題だということを知ることが出来ました。最近では女性の晩婚化も少子化に繋がっているとも言われていましたが晩婚化という減少は結果であって原因ではなく日本はまだまだ女性が働く基盤が整っていない、だから他の先進国に比べて共働き率が低く少子化に繋がっているというお話も印象的でした。

自分をグーグルかする方法といったこともとても面白く、全体を通して今話題になっている問題を色々な観点から見る事ができるということを教えていただいたような気がしました。インタビューでもおっしゃっていたことですが何か問題が起きたときにそのまま受け止めて流すのではなく自分の頭でしっかり考え、色々な方向から物事を見ることで本当の問題は何か、原因はどれなのかといった自分なりの結論を出せることがしっかりと考えていることであるということを感じました。私は新聞やテレビで話題のなっているニュースを見ると「そうなんだ。」と納得するばかりで、そこでさらに記者やコメンテーターの人が意見をしても「うん、その通り」と思ってしまうで自分で考えたり、聞いたりすることがほとんどなかったように思います。

これではただの受け流しをしているだけで自分の考えも育たないということが今回の講義を通して分かったので、日常の生活の中から色々なことに対して考え自分なりの意見を導き出せるように少しずつ練習していこうと思いました。今回、勝間和代さんというテレビでも話題の方のお話を聞くことで、これまでのキャリアパスの教室での講義式の授業とはまた違った面白さがあり今後もこういった授業があるといいなと思いました。